

獨逸の食糧生産

("Germany's Food Production")
(The Statist, no. 2135 p.135 抄譯)

大森 研 造

歐洲大戰の終熄は一九一九年に於ける獨逸の食糧輸入に關する調査の開始を緊要ならしめたり、戰鬪の意思なき者をして故意に餓死せしむるが如きは吾人の欲せざる所なれば須らく獨逸に對して食糧輸入の門戸を開放せざるべからず茲に於てか一先づ獨逸國民に幾程の購入を許すべきか(一)今後不慮の事變に對する準備として穀物の貯藏を許すべきか(二)三次回の收穫期に至るまで實際の必要量に制限すべきか(三)第四の場合に於ける需要量果して如何等の問題を生ず。戰前に於て獨逸は多量の小麦、大麥、玉蜀黍、燕麥及油種等を輸入せしも、輸出品は僅かに甜菜糖、製肉、腸詰に過ぎざりしを以て觀れば食糧自給の途立たざりしや瞭にして開戰後輸入杜絶の結果(一九一五年以降)は從來の地位を一變せざる

可らざるに至れり。

由來獨逸は地味肥沃にして肥料豊富なり加之スカンデナビアより多量の窒素肥料を輸入して之を施用したるがため肥度著しく増加し土質加里性分を有する地方は馬鈴薯の收穫を増加し得べく又一方耕作地の擴張と他方牧場地積の減縮とは獨逸國民の食糧供給純額を増進せしめたり獨逸全面積の九割四分は耕耘に適し之を英本國の八割四分なるに比すれば大なる逕庭あり、因に謂ふ全歐洲に於ける最沃土たる匈牙利は九割六分二厘にして最瘠土たる諸威は二割八分七厘なりと。

獨逸は一九一八年の後半迄豐饒なるアルサスローレンを領有せしが現在に於て然らず、且戰時中同國の農業に貢獻せし三百萬人の露國捕虜は漸次本國に復歸すべきが故に農業勞働の不足を生じ食糧生産に著しき影響を來たすや論なし。開戰前(一九一四年七月)に於ける獨逸の狀態は注目に値すべく左に簡單なる一表を以て之を示さん。

人	口	六七、八二二、〇〇〇人
生産面積	一二三、八四〇、〇〇〇エーカー	
耕作面積	六二、四〇〇、〇〇〇	
草地	二〇、八八八、〇〇〇	
林地	三三、六〇〇、〇〇〇	
穀物栽培	三五、二八〇、〇〇〇	
野菜類	九、一二〇、〇〇〇	
馬鈴薯	七九二〇、〇〇〇	
甜菜	一、二〇〇、〇〇〇	
葡萄	二七一、〇〇〇	
馬	四、五二三、〇〇〇頭	
牛	二〇、一八二、〇〇〇	
羊	五八〇三、〇〇〇	
豚	二一、九二三、〇〇〇	
鶏	八二、七〇二、〇〇〇	

尙公署の發表せし一九一五年と戦前との收穫に關する比較表を示せば左の如し。

	(戦前)	(一九一五年)
小麦	四一、百萬担	三八、百萬担
裸麥	一〇八	九一
大麦	三一	二四
玉蜀黍	八二	五〇

今若し上掲公署の計算にして信を措くに足るとせば、戦争の開始と共に農産物の收穫が著しく減退せしことを窺知し得べし、但し小麦及裸麥は未だ長期の戦争を豫想せざりし一九一四年

の秋季に播種せしものなるを以て其差額比較的大ならず。尙同國各聯邦は各別の收穫計算を有す今一九一四年に於ける其地方別生産高を示せば次の如し。

	小麦	裸麥	大麦	燕麥	馬鈴薯
プロシヤ	三、八四六、九七五、〇〇〇	三、〇三二、〇三二、〇〇〇	三、〇三二、〇三二、〇〇〇	三、〇三二、〇三二、〇〇〇	三、〇三二、〇三二、〇〇〇
フランス	九、二六〇、七〇三、〇〇〇	九、二六〇、七〇三、〇〇〇	九、二六〇、七〇三、〇〇〇	九、二六〇、七〇三、〇〇〇	九、二六〇、七〇三、〇〇〇
ベルギー	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇
メクレンブルク	一、五二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、五二〇、〇〇〇、〇〇〇
プレンスワイツ	九、八二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、八二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、八二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、八二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、八二〇、〇〇〇、〇〇〇
バーデン	九、〇三二、〇〇〇、〇〇〇	九、〇三二、〇〇〇、〇〇〇	九、〇三二、〇〇〇、〇〇〇	九、〇三二、〇〇〇、〇〇〇	九、〇三二、〇〇〇、〇〇〇
ウエルテンブルグ	八、二六〇、七〇三、〇〇〇	八、二六〇、七〇三、〇〇〇	八、二六〇、七〇三、〇〇〇	八、二六〇、七〇三、〇〇〇	八、二六〇、七〇三、〇〇〇
アルサスローレン	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇	四、八六二、〇〇〇、〇〇〇

由是觀之プロシヤ及バワリアは小麦國にして殊に前者は裸麥及馬鈴薯につき一段優秀の地位を占め、飲酒の風習盛なるバワリアは自然大麦の大耕作者にして且つ燕麥をも多量に栽培す。

良好なる小麦及馬鈴薯の耕作地たるアルサスローレンは佛國に還附せらるゝならんも此地方に於ては裸麥燕麥の栽培極めて尠し、今戦前に於ける食糧輸出入の状況を左に示さん。

	輸入		輸出	
	二百萬封度		五百萬封度	
小麥	一	二	五	二
麥粉	四	九	六	一
燕麥	三	三	三	三
大麥	三	三	三	三
粟	二	二	二	二
玉蜀黍	九	六	六	一
馬鈴薯	四	三	三	三
亞麻仁	五	一	一	一

輸入品の大宗たる大麥は國內に於て三千三百萬封度の收穫あるに拘はらず之と同額の輸入をなすは是れ麥酒の醸造に供せらるゝがためにして尙馬鈴薯が五億一千萬封度の收穫あるに拘はらずその輸出額は僅かに三百萬封度にして却つて四百萬封度の輸入を仰ぐが如きは一方其大部が酒精其他化學用藥品として使用せらるゝと他方二千二百萬頭の豚の飼料に供せらるゝがためなり。

一九一九年に於て獨逸が若し麥酒の飲用を廢止し且馬鈴薯の全部を食料に充當すとせば——戰前の後の場合に於ては多くの豚を失はん——戰前の數字を基礎とするも尙且自給自足の途を講ずることを得べけん、又五百萬エーカーの牧場が耕

作せられ一エーカーに付き平均八千封度の穀物を生産すと假定せば全體につきては四百億封度の増加を見るべく而して開戰前に於ける食糧の純輸入額は六百二十億封度にして其内三百二十億封度は大麥なり、茲に於てか獨逸の食糧問題に關しては左に掲ぐる四方法の内何れかを選択することに依りて本年を無恙に經過し得べしてふ結論に到着するものゝ如し即ち一約二百二十億封度の輸入を仰ぐか二麥酒の飲用を廢止して大麥の食用を勵行するか三家畜の飼養を半減して一方馬鈴薯の消費を輕減し他方牧場を開墾して穀物を栽培するか四全國民の穀物食用に對し二割の減食を斷行するかに在り。

乍併嚴重に封鎖せられし獨逸は恐らく新穀を穫るまでに家畜の大半を屠殺せざるべからざる運命に在り何となれば八月以前に於て製粉すべき何程の穀物をも有せず而かも馬鈴薯の收穫は十月以後なればなり。

賢明なる經濟論は獨逸が購入せんと欲し聯盟國が即時に賣却し得る食糧を以てこの危機を無

事に經過せしむるの最良策なるべきを示せり、但し聯盟國が此機に乗じて金錢上の利益を獲得せんとし或は獨逸をして新收穫以上に法外の貯藏を許すが如きは策を得たるものと謂ふべからず。

獨逸と雖も一年に亘りて節約し得る食糧額を今後三箇月間に節約すべしと云ふが如きは到底實行し得ざる所なり。乍併獨逸も今秋に於ては一箇年の平時必要額に相當する新收穫を得べく従つて吾人が前述せし三經濟策の何れかを實行するに於ては其期間内國民を養ふことを得べけん。